

リニューアルした「東雲の穂」の包装紙を手にする生徒と、鳳鳴酒造の .さん
(前列右端) =丹波篠山市呉服町で



東雲高校 × 鳳鳴酒造

生徒らデザイン刷新

純米酒 「東雲の穂」の包装紙

篠山東雲高校が栽培する酒米を使い、酒造会社「鳳鳴酒造」(呉服町)が製造している日本酒の酒瓶用包装紙のデザインを、同校地域農業科の生徒8人がリニューアルし、同社に刷新した包装紙1000枚を届けた。酒米栽培を通して6次産業を学ぶ「日本酒プロジェクト」の一環で、7年目を迎えた。デザインには同プロジェクトに対する熱い気持ち、同校の特色や魅力を広く知ってもらいたい、という思いを込めている。

同校は今年度、酒米の販売している。

「五百萬石」(H y o g o

S a k e 85」の2品

種を栽培し、計約3トを

収穫。JA丹波ささやま

を通じ、同酒造へ出荷し

た。同社は、同校が栽培

した2種の酒米などを使

用して日本酒「鳳鳴田

舎酒純米」を製造し、

「東雲の穂」の商品名で

包装紙(縦63センチ、横44

センチ)のデザインは2

年ごとに刷新。今回は同

校の3年生1人、2年生

7人が手がけた。両面カ

ラー刷りで、表面には、

体育祭や学校祭、修学旅

行、部活動などのワン

シーンを写した写真を散

りばめ、充実した学校生

活を伝えている。裏面に

は、同プロジェクトの経

緯や今後の展望、2年生

から始まる類型学習の特

徴を写真と共に紹介し、

生徒の声を学びの成果と

して掲載している。

同プロジェクトリ

ダーの .さん(3

年、篠山中出身)は、

「お酒を飲みながら、東

2024年11月3日

丹波新聞

雲高校の取り組みにも関

心を寄せてほしい」と期

待し、「プロジェクトを

通じて、地域のことや地

元企業に興味を持てた。

この包装紙が販売促進に

つながればうれしい」と

話していた。

同酒造の

さん

み

を

ダイ

レクト

に味わ

え

は、「東雲高校とは何年

も関わらせてもらって

い

り、冷

でも

燗で

もお

いし

い逸品」と話した。

一

升

瓶

(1・8

リットル)

が

2500

円(税

込み)

、4

合

瓶

(720

リットル)

が1

620

円

(同)。

「東

雲の

穂は

コメ

のう